

文語歌曲 軍艦（行進曲）

谷田貝常夫

一、

守るも攻むるも黒鐵の／浮かべる城ぞ頼みなる

浮かべるその城日本の本の／皇國の四方を守るべし

眞鐵のその艦日本の本に／仇なす國を攻めよかし

* 「くろがね」も「まがね」も鐵の古稱

二、

石炭の煙は大洋の／龍かとはかり靡くなり

彈撃つ響きは雷の／聲かとはかり響むなり

萬里の波濤を乗り越えて／皇國の光輝かせ

* 「石炭」のことを「岩木」と呼べり。

* 「響む」は多くの人間の大聲あげて騒ぐこと、「どよめき」

(三)

歌海行かば水漬くかばね 山行かば草むすかばね

大君の邊にこそ死なめ長閑には死なじ（かへりみはせじ）

* 「長閑」は「のどか」「おだやか」の意

* 海行かば 作曲 東儀季芳

歌大友家持 「陸奥國に金を出す詔書を賀す歌一首、并せて短歌」

この歌、明治三十年頃に作詞され、すぐつけられたる曲とは別に、當時軍樂師として一番上の位に在りし瀬戸口藤吉が新たに作曲し直したる樂譜にて演奏始めらる。以後海軍の制定行進曲となり、世に知られるに至るも、この曲の全國的に知らるゝになりたるは、戦後のパチンコ店にて大音量にて街に流れたるによる。一説有り。有樂町にて店をはじめたるは元海軍兵士にて、周りに米兵多く、騒ぎまくるに對抗し、このマーチを大なる音にて流したり。慌てたるは近所の警察署、早速當時の米總司令部に御注進に及びしも、文書の檢閲はすれど音樂は御構ひなしと扱はれたる由。この店外へのマーチ發信に、客の數大幅に増えたり。以後他店が眞似、そが全國に及びたり。

平成二十六年には、東京の自由が丘にて米海軍第七艦隊の音樂隊による演奏會開かれ、その一曲にこの行進曲組入れられたり。しかも中に、日本海軍にて常用されし行進曲風「君が代」旋律吹奏せられたり。將に隔世の感あり。一方、日本にてかかることありとは思はれぬ事件ありたり。横須賀市の三笠公園に市長の許諾を得て有志本曲の歌碑建てたり。されど公園管理課の職員、好戰的なるを理由として除幕式の折、歌詞を黒ビニールにて覆ひ隠せり。さらに後日何者かが歌詞をコンクリートにて埋め潰せり。今は舊に復したりといへど、かかる大陸の文化大革命に似たる破壊行爲は國風にはづることなり。

これ、行進曲の名曲なれば、世界的にも認められをり。大陸、韓國を除き、海外にても演奏の機會あること、たとへば台灣、國民黨に對する獨立派は、演說會の盛上げに軍艦マーチを流せりとか。『軍艦

マーチのすべて』なるCDあり。そこにては「ミャンマー・ドゥイェ・タツマドウ（ミャンマー國軍）軍樂隊による「軍艦行進曲メロディ」の演奏および合唱聞かる。現在も同國國軍の公式行進曲なりとか。更に興味あるは三島由紀夫指揮による軍艦行進曲の納められたることなり。昭和四十三年、文京公會堂にてのこと。同盤の他の演奏に競らぶれば、テンポが早く如何にも死に急げる趣きあり。それなりの感銘ありて更に調ぶるにYouTubeにて、この時の録畫見ることを得たり。團伊久麿の番組にて「音は敵だ」なる發言の後、指揮臺にのぼりて讀賣交響樂團に對す。ちよこまかたる素人まるだしの棒の振り方なれど、團員達、三島の人格に煽られたる如く輕快にして力強き演奏す。

この曲全體は、主題メロディに加へて「海ゆかば」の加へらるゝこと多し。歌ふ場合には、海軍軍人のみが歌ひし儀制曲の「海ゆかば」にてメロディは雅樂調の、しかし國歌とは異なる「君が代」なり。どちらも短歌なれば歌へるにせよ、複雑なる構成なり。三島由紀夫指揮の器樂演奏にも、米第七艦隊の場合も、この「君が代」「海ゆかば」曲、加へられをりたり。

この曲、出だしに日本の童歌などにみらるる、跳ねるがときピョンコ節使はれ、後には八分音符の等價リズムになりて西洋のマーチ的なるリズムに移り、ここに日本的なるものと西歐的なるものが混りあひて、如何にも國際派日本海軍に適合せる音樂になりあほせたりとは、片山杜秀氏の説明なれど、如何にもそのとほりの樂曲なりと納得す。

瀬戸口藤吉逝いて七十五年、様々なる曲折ありたれども、人を酔はせ續けし名曲と言へむ。

（平成二十八年十一月十六日受附）